

ワンヘルス推進調査特別委員会
委員長報告に盛り込むべき内容について（たたき台）
（これまでの委員会活動より）

1 ワンヘルスアプローチを本県で進めることの必要性について

【福岡県】

- ・人が感染する感染症は現在確認されているものだけでも1,400種類以上あり、その6割が動物由来の人獣共通感染症と言われている。
- ・人獣共通感染症が増加する要因の一つが人口問題。アジア、アフリカ地域を中心に人口は増え続けており、今後もしばらくは人口増加が続いていくと言われている。人口が増加すると、その分食料が必要になり、そのためには広大な農地が必要になる。すると、森林が農地など他の用途に転換されて森林破壊につながる。森林がなくなると、そこに生息していた生き物の生息地が奪われ、生態系のバランスが崩れる。また、森林を開発することで、今まで人が入らなかった森林に入り込んだり住み着いたりすることで、人と家畜が様々な病原体を持っている野生生物と接触する機会が増える。そうすると、人がウイルスに感染しやすくなる可能性、危険性が高くなっていく。
- ・人獣共通感染症には地球温暖化も関係している。世界の年平均気温は過去100年当たりで約1度上がっている。地球温暖化によって南極や北極の氷が解け、海面の上昇により陸地が減れば、森に生息する動物たちや草花の生活環境が失われ、生態系が大きく変化する。地球温暖化により台風や豪雨などの異常気象の増加、それに伴う沿岸洪水や地滑りなどの自然災害の被害が拡大する。私たちの知らないウイルスが北極の永久凍土や土の中の深いところに潜んでいるかもしれないが、地球温暖化によって氷が解けたり自然災害、豪雨などによる地滑りなどによって、土の中にいる未知のウイルスが表に出てくるといった可能性も否定できない。
- ・地球温暖化による気候や気温の変化は、病原体の生存できる環境を広げたり、感染症を媒介する動物の移動や拡散、増加に寄与する可能性が高くなってくると考えられる。
- ・地球温暖化が進み日本が熱帯地域になっていくと、これまで日本にいなかったような、感染症を媒介する生物が生存できる社会になっていくものと思われる。
- ・人間は、新しい病原体に対する免疫を持っていないため、新しい人獣共通感染症が発生した場合、新型コロナのパンデミックのように世界規模での大流行が起こり、社会経済活動が大打撃を受けることとなる。これは、これまで人が

利便性や経済活動を重視した行動や活動を行ってきたことに問題の根本があると考えられる。だからこそ、増え続ける人獣共通感染症に対応するため、ワンヘルスの理念に基づく総合的な取組が重要になってくる。

- ・新型コロナウイルスに続く第2、第3のパンデミックが起きないようにするために、我々人間が自然環境などに配慮した行動を取っていかうという考え方がワンヘルスであり、つまりワンヘルスは、次なるパンデミックへの備えということになる。

- ・福岡県が様々なワンヘルスの取組を進めている目的は、ワンヘルスを進めることで、人と動物の健康及び健全な環境が調和した社会を目指し、我々の命と健康を守るとともに、健全な地球を次世代につないでいきたいということにある。

【芳賀教授】

- ・ワンヘルスの概念が提唱された大きな背景には、20世紀の終わりに相次いで動物に由来して人間が感染する新しい感染症が次々と出てきたということがある。アジア全体で人口が非常に増加してきており、そのために食料増産が必要で、特に畜産はたんぱく源といった観点から非常に重要な食料ということで、奥地まで開発されていくことによって、家畜を介して、人類が出会ったことがないような野生動物の病原体に遭遇するというようなことが起きてきた。こういうことから、新興感染症は、人間だけを考える活動への警鐘だと言われていた。感染症を介して、人間活動が様々な環境に与えている影響が人間に返ってくるということを考える大きな出来事になった。

【委員】

- ・我々の生活、社会活動、環境破壊を、ワンヘルスの理念のもとに止めることができるのか、人間が豊かな生活に制限を設けることを受け入れてまで環境保全をやっていくことができるのか。ワンヘルスの理念の下、そういった決意が人間側にあるのであれば、ワンヘルスを推進をしていく価値はあると思うが、そこまでの決意が人間側にないのであれば、なかなかワンヘルスの理念を具現化していくのは難しいという感覚。

【本県医療保健部】

- ・(人獣共通感染症対策等の施策を行っていくにあたり、縦割りの体制ではなく、ワンヘルスを推進する体制とすることで、どのようなメリット・政策的効果があると思うかという委員からの問いに対し) 新興感染症が人に伝播するのを防ぐという感染症対策の観点から、農林水産部と鳥インフルエンザに係る情報共有など、特定のテーマに関する連携ではあると思う。

例えば、新型コロナウイルスの対応の際には、医療関係団体との密な連携により、県の対策や対応がスムーズに行えた。そのため、さまざまな分野の関係団体との連携というのが、いざ対策を行う際には非常に重要ではないか。

2 関係機関の連携について

【三重県獣医師会】

・新たな感染症に対応するためにもワンヘルス・アプローチが必要であり、動物の健康を担う獣医師会としては、医師会等とさらに連携して取り組んでいく必要があると考えている。

【三重県医師会】

・行政も交え、我々医療機関と獣医師の医療機関との間で共通認識を持って新興感染症を疑った場合の連絡協議網をつくる必要がある。

【福岡県】

・ワンヘルス推進基本条例の中で設けている仕組みとして、医師会、獣医師会等関係する専門家等が集まる会議の場であるワンヘルス推進協議会があり、そこで情報共有を行っている。三重県でも医師会と獣医師会は学術協定を結んでおり、素地があるので、福岡県と同様の議論する場があればよい。

【徳島県】

・徳島県では、平成 16 年度から医師と獣医師が分野を超えて最新情報や課題解決策の共有を図るため、徳島県動物由来感染症対策検討会が設置・運営されており、令和 4 年度からは環境問題の有識者も参加している。具体的な取組の内容としては、大きく 3 点、①動物由来感染症に係る対応、②徳島県医師会・徳島県獣医師会の連携、③動物の病原体のモニタリング・調査を行っている。

【委員】

・徳島県の検討会のような、医師会、獣医師会、環境関係の有識者も含め、三重県として人畜共通感染症の実態がどうあるのか、どういう課題があるのか、これを社会全体に進めていくためにどういうように進めていったらよいかといった検討組織を三重県でつくっていくということを特別委員会で提案していくのはどうか。

・福岡県のワンヘルスの推進協議会、徳島県の動物由来感染症対策検討会という組織の話聞き、将来的な条例の制定も考えながら、まずは、医師会、獣医師会、行政をはじめ、関係する団体も含めた取組協議会、人畜共通感染症について検討する組織の設置を求めていくことが考えられる。

・獣医師会、医師会など専門家の方々のご意見をもう少し深掘りしていただくような場を作っていただき、そこでの考えをもとに、議会としてどうしていくのかということを考えていくのも一つ。

3 ワンヘルスの理念の県民への周知啓発について

【福岡県】

- ・森林セラピーや野生動物とのすみ分けなど、ワンヘルスの重要性を実感できる場として、県立の四王寺県民の森をワンヘルスの森として整備した。
- ・県民によるワンヘルスに関する行動や活動の実践につなげていくためにも、身近な地域においてワンヘルスに関して学んだり体験したりすることが重要だと考えており、市町村が管理する森や公園などの施設でワンヘルスに関して理解を深めるための取組を行っている場合、その施設をワンヘルス啓発施設として県が認定する制度を設けている。
- ・ワンヘルスを県民の皆様に身近に感じ、理解してもらうことを目的として、令和2年度からワンヘルスフェスタを開催している。
- ・ワンヘルスを県民一体となった取組として広げていく上で、子供たちに対する教育の役割は大変重要であるため、令和3年度からワンヘルス教育推進事業を実施している。

【徳島県】

- ・令和5年度は、条例が定めるワンヘルス推進月間である9月にシンポジウムの開催、動物由来感染症を媒介するマダニや蚊などの予防に関する県民公開講座の実施及び動物愛護のつどいにおける啓発ブースの出展、ワークショップ等に取り組んだ。

【委員】

- ・ワンヘルスという言葉の説明しようとする、できそうでできない。ワンヘルスとは何か、委員会の共通認識を持ち、それを県民に伝えていくということをまずやるべき。
- ・三重県はすぐに条例化をしなければいけない状況ではないと思うので、まずそれ以前の段階で、県民への啓発、啓蒙も含め、全体の空気を熟していくような施策を考えていく必要がある。専門家の方々も含めて、そういう働きかけを議会としてやっていくことが大事。
- ・福岡県に県外調査に行き、四王寺県民の森に「ワンヘルスの森」というネーミングをつけて県民への浸透を進めていくというのを聞き、参考になった。身近なところにワンヘルスの拠点を造って県民の皆さんに浸透、ご理解いただくのも一つ。
- ・野生動物に付着したマダニがペットを介して人に感染するということが往々にしてあるので、ペット動物の適正な愛護、管理についてワンヘルスの視点でも県民の皆さんに訴えていけると、これも一つの啓発になる。

4 環境政策について

【芳賀参考人】

・ワンヘルスと環境がどのように関係しているのと聞かれると、皆さん、日常生活で環境と無縁ではられない、食べ物にしても、どういうところで作られているか、どんな環境で作られているか、そういうことが分かるようになってくると、環境に優しいものを購入するとか、そういうことをやっていただけるとよいのではないかという話をしている。これは倫理消費という表現が最近よくされるが、そういう観点から、消費者にも分かるようにしていくというようなことは一つの方策ではないかと思っている。そのような色々なアイデアは、いろんな方から出していただくのがいいと思う。

・環境問題は非常に重要なところだが、今後どうなっていくかというのは本当に分からないとしか言いようがない。ただ、温暖化に関していろいろな会合が開かれてきている中で、これまでいろんなことを言う人がいたが、科学的なエビデンスとして、やはり人間活動が温暖化に影響を与えているというのは間違いないとコンセンサスが得られるようになってきた。人間活動をいかに環境負荷をなくしていくか、温暖化に優しい形にしていくかということをやっていけないといけなことが言われている。

・生物多様性が失われてしまうと非常に困る。生物多様性が失われることによって、感染症も増えてくるということがデータの的にも示されている。今、非常に大きな絶滅期にあると言われており、絶滅を止めて反転させようと、今、ネイチャーポジティブと呼ばれる活動が始められつつあるが、ぜひそういった活動を進めていくということを国レベル、地域レベルあるいは国際レベル、それぞれのレベルで考えていただき、かつ連携を取るとするのが非常に大事。

【福岡県】

・我々人間は地球上の生き物から空気と水をもらって生きているが、これを僅か70年程の間に壊してしまっている。地球の健康を壊して自分の首を絞めている。地球の健康をまず守って人間と動物の健康を守らないと我々の将来はないだろうということを世界中の多くの学者が認識している。

・人口の爆発的増加・過疎化、環境破壊、森林・亜熱帯の開発といった人間の行為によって、地球がもうこれ以上存続できないと悲鳴を上げている。温暖化等によって豪雨災害が発生したり、無計画な土地開発等によって感染症が発生したりしている。我々はこういったものに対する備えを持って、地球を守る運動をやらなければいけない。

・ワンヘルスの推進にあたっては環境対策が一番取り組みやすい点でもあるし、

一番すぐ効果が上がる場所と感じている。地球の環境問題をどうにかしないと結局対症療法にしかならないので、元から断つためには、地球環境を改善していく、あるいは、これ以上悪化しないようにしていくことが大事。

【三重県医師会】

- ・(今後の人獣共通感染症対策について) 話は大きくなってしまいが、いかに健康な環境を保ってあげるかと、それによって新しく発生するようリスクを減らしていくということが一番大事になってくるんだらうという概念的な話になる。
- ・人間相手の医療機関も動物相手の医療機関も共通して、治療に用いた抗生剤や注射器等の医療廃棄物を環境上に垂れ流さないよう最大の注意が必要。

5 ワンヘルス推進のための条例について

【福岡県】

・福岡県議会の議員提案条例は、単なる理念条例ではなく、何らかの条例の実効性を担保するような規定、仕組みを置くという方針でこれまで検討されてきており、ワンヘルス推進基本条例でいうと、ワンヘルス認証の規定及び県の組織や県の機関の創設等を誘導するような規定がそれに当たる。

・福岡県は基本条例という形で全体を非常に幅広に規定したが、規制する部分はないので、条例である必要は本当はない。むしろ計画が先にあって、中々進まないところがあれば、それについての法的な手だてとして条例の制定というやり方もあり得ると思う。

・条例策定当時パンデミックのさなかだったので、例えば調査への応諾義務を規定するといったような、規制的なことも検討したが、非常に批判が強かったため、そこはやめて、基本的な理念と具体的な仕組みづくりのほうに特化した。どのような規定の仕方をするかというのはそれぞれの県の独自性があって何ら差し支えないと考えており、むしろワンヘルスという考え方を理解することが一番重要と思っている。

【徳島県】

・徳島県としては、まずは県民にワンヘルスが何かというものを理解していただくということを1つの大きな目標として条例を制定した。

6 その他

【芳賀参考人】

- ・感染症防止対策をどう取るかというのは、地域によって違う。その地域で何が流行っているとか、こういうのは特に気をつけなさいとか、そういう情報発信をすることによって地域の人を守るといふ、これは地域ならではのことがあると思う。
- ・ワンヘルスは、感染症からスタートしているが、動物、環境といったものに配慮していく必要があるということで、そのための仕掛けづくりとして、政治経済、社会の仕掛けというのが非常に大きく関わってくると思っている。結局、こういった問題が回り回って人間に返ってくるわけで、一人ひとりの幸福を次世代につなげるということを考えると、県レベルでどういうことができるのか、仕掛けづくりといった視点で考えていただけるとありがたい。

【三重県医師会】

- ・我々ができる人獣共通感染症に関する対応は、新型コロナにおいて行われた対応と本質的に全く変わらず、手や指の消毒を行う、部屋の換気を行う、大人数の感染をリスクとするような場所で行動する場合はマスクをするといったことを日々の生活の安全のためにやっていけるよう啓発していくことが大事。